

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年11月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100645
法人名	有限会社すわ福祉ネット
事業所名	グループホームさちの里
所在地	高崎市金古町987-1 (電話) 027-360-6778

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費260円/日~330円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	390 円
	夕食	390 円	おやつ	50 円

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	74歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に田畑が点在し、近くに文化施設「絹の里」、児童養護施設「フランススコの町」があり、環境的に恵まれた木造平屋建てのホームである。介護経験豊富な管理者夫妻が、特に認知症の支援への高い理想のもと、ホーム「さちの里」を平成15年に開設した。その後、管理者夫妻はホームに隣接して自宅を建設し、職員の負担軽減に努力している。管理者夫妻所有の畑で収穫した、安心安全な野菜を利用者や職員に提供するとともに、利用者もホームの農園で野菜づくりや花摘みを楽しんでいる。昔からの住民と新しい住民の混在する地域で、ホームの地域貢献も含めた、地域活動はこれから活発化してくるものと思われるが、徘徊した入居者に対する地域の暖かい援助もあり、地域に根づいていることを窺わせている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題とその後の取り組みで、「自己評価を職員とともに作成すること」について、その一部を職員一名に担当させ管理者とホーム長で完成させている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・ホーム長は、職員の負担にならないよう、そのほとんどを自ら作成している。評価の結果等については、職員会議で伝達している。今後は客観的に業務を見直す材料として、全職員に作成作業を担わせることで、更なる支援の質の向上を期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、議事録を残している。自己評価・外部評価結果の配布、ホームの活動状況の報告、意見交換等が行われている。会議のなかで話題になる地域行事に参加するとともに、今年度は会議終了時に災害訓練を実施し出席者が参加するなど、ホームの状況の共有化を図っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月に一度の面会時に、家族の意見や希望を聞き取るようにしている。運営推進会議結果は配布し、意見を求めている。寄せられた意見等は朝の申し送り時に職員が共有し、解決の方途を検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも老人会(長寿会)にも加入していないが、子供育成会・長寿会の交流会に参加したり、地域のお神輿の休憩所に利用してもらったり、納涼祭に参加して地域に溶け込んでいる。子供たちが遊びにきたり、野菜を届けにくる方がある等交流が深まっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の認知症ケアに疑問を感じ、家庭的安らぎの得られるホームをめざして、「自由と意志を尊重したケア」「家庭のような安らぎを感じられるケア」「能力を最大限に発揮できるケア」「生きがいや喜びを見出せるケア」「地域社会との結びつきを大切にするケア」を掲げ、ホームのパンフレットに載せて広く周知を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、朝の申し送りの時に、常に理念を踏まえた指導を職員に行い、全員が一律にケアができるように取り組んでいる。職員も入居者の意思を尊重しつつ家事手伝いをしてもらったり、機能低下防止のためその方ができる能力を見極めて介助する等理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会には加入していないが、子供育成会や老人会主催の「三世代交流会」に参加したり、地域のお神輿の休憩地点になっていたり、地域の納涼祭に参加したり等、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成は、その一部を一人の職員を中心に作成させ、最終的に管理者が完成させている。評価の意義等については職員会議で細かく職員に伝え、前回評価の改善に取り組んでいる。	○	自己評価・外部評価結果はケアの客観的視点として、さらに活用されるとともに、特に自己評価作成は全職員が参加し、一層のケアの充実が図られることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、入居者代表・家族介護者代表・区長・長寿会長・民生委員・市職員・スタッフの参加で開催されている。毎回の会議録・外部評価結果等が配布されるとともに、ホームの活動状況や家族介護者の体験談等も報告され、意見交換がされている。地域から、地域の行事への参加案内などの情報提供もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度、市の介護相談員の受け入れをしている。昨年は、地域のホーム事業者による認知症キャラバンに、市職員の参加協力を得て連携して開催している。ホームの入居状況などについても、市へ報告に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いをかねて、毎月面会にくることをお願いしている。面会時に近況報告や要望等を聞き情報を得ている。おたより「ニコニコ家族」や写真を郵送しているが、入居者の健康状況は電話によることが多い。金銭管理は行っていないが、必要があれば立替払いをし、利用料支払い時に明細等添付して請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見等情報を得ている。家族からの要望等は、朝の申し送りの時に職員で話し合っている。運営推進会議の結果は配布し、意見を求めている。苦情の窓口として、契約書に管理者が記載されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独施設なので異動はないが、健康上の理由等で退職者した場合、入居者には「研修に行っているため不在」等伝えて、ダメージの軽減に努めている。一度離職されても、時間の都合等に柔軟に応じて再就職しやすい体制を整えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修計画に沿って、管理者から職員への参加要請となっている。研修項目については、職員会議で周知している。研修内容は認知症関連が中心で、権利擁護や虐待防止等の研修会には参加していない。研修結果は回覧方法で、職員会議等での報告は特にされていない。	○	参加した研修内容を全職員で共有・活用ができるよう内部研修を開催するなど、内部研修計画の作成に取り組まれることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、年1回の職員交換研修に参加している。地区のブロック研修や管理者研修に参加し、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望には、本人・家族ともども何回でも見学にきてもらっている。事前に見学に来られない家庭には、施設・病院を問わず職員が訪問している。入居は午前中とし、生活歴や希望を考え、畑に案内したり、役割分担をお願いしたりしている。入居後は、管理者など本人と一番接触の多かった職員が主に対応するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員の信頼関係を大切にして、入居者が「笑顔」を見せてくれることを最優先として、全てのケアを行っている。「言葉で繋がらなくとも、感情は繋がる」をモットーに、洗濯物たたみ・室内の清掃・お茶くみ等、全員が何らかの役割を持って職員ともども家族のように生活を営んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい環境づくりに心がけ、入居者の訴えを言葉ばかりでなく、あらゆる場面から把握に努めている。過去の経歴や家族からの情報も把握し、本人本位の支援が出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が中心に、本人・家族の要望等によりアセスメントをまとめ、介護計画を作成して職員会議で説明し、共通の理解を図っている。介護計画は、常に職員が閲覧出来るようにしている。	○	情報収集やアセスメントをまとめる段階で、職員等との話し合いや意見交換の機会を多くもち、介護計画完成までの経過も共有した上で、プランに沿った共通の介護ができることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、身体面や精神面だけにとまらず、細かな行動変化にも目を配り評価した上で、3ヶ月に1回見直しを実施している。入居者の状況は、職員間で日常的に話し合われており、状況の変化に応じて適宜、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の住民の認知症の相談に応じている。入居者の通院や買い物に職員が同伴するなど、その時々要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの定めた医療機関はなく、入居者個々のかかりつけ医で対応している。ケース記録や入居者の生活状況のメモ等を職員が持参し、家族と一緒に医療機関を訪れている。かかりつけ医が、月に1回往診に来る入居者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望通りの支援を考えて、入居時に家族等へ伝えている。今後は、重度化やターミナルケアに対応するための医療機関を定めていくことを考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と、守秘義務の契約を結んでいる。自立排泄を尊重し、失禁時はさりげなく誘い、周囲に気づかれない配慮をしている。入浴は職員1名が見守る中、気ままに入浴を楽しんでいただいている。記録等の個人情報は、事務所のロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間帯と消灯の時間は決まっているが、基本的には本人の自由で、その人のペースで生活している。食後に自室で横になったり、ホールで塗絵をしたり、散歩に出かけたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は週5日は業者から配達されているが、これに一品添えるようにしている。その他の週2日は、入居者の希望を聞き、共に食事の用意をしている。食事の際は職員が交代で、1人が付き添いサポートし食事を共にしている。また、小旅行や敬老会では外食を楽しんでいる。毎日、入居者と職員で手作りおやつを作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月・水・金曜日だが、希望や状況により臨機応変に支援している。一人入浴を原則としているので、ゆったりと自由に入浴を楽しんでいる。入浴剤や柚子湯なども楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや後片付け等に参加するのをはじめ、塗絵・貼り絵や自室の掃除・野菜づくり等、本人の残存能力を考えて全員が何らかのかかわりを持って、1日をその人らしく暮らしてもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、毎日出かけている。近隣の梅見やポピー見物に、入居者の希望や状況を考慮して支援している。入居者の要望で、大型量販店や観音山・妙義山・りんご狩りなどにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを原則にしている。居室からテラスに出ることもできる。徘徊のある入居者には徹底的に付き合い、納得してから戻るようにしている。近隣の方からの連絡等も期待でき、安全の確保がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規程のなかに、3月と10月に災害訓練実施を定めている。防火管理者のもと消防計画を作成し、周知を図っている。今年は消防署の協力を得て、運営推進会議のメンバーの参加のもと夜間体制を想定して、通報訓練・避難訓練・初期消火訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は健康管理チェック表を作成し、ケース記録に掲載している。水分量は体調不良の際にチェックしている。個々に食べやすいようにお粥にしたり、塩分ひかえめにしたり、ほぐしたりして支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールには、行事の時の写真や貼り絵・季節の花などが飾られ、サンルームのような部屋にもでられて、快適な空間づくりがされている。ここで、入居者は塗絵をしたり、テレビを観たりと自由な時間を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングにベットという室内にカーペットに炬燵をおいていたり、馴染みの家具が持ち込まれたりしている。壁には家族の写真や仲間との写真、ぬいぐるみ等が飾られ、各々個性のある部屋作りがされ、居心地のいい居室づくりがされている。		